

【開催趣旨】

東日本大震災から6年8月が経過する現在も約5万7千人の多くの避難者が未だに県内・県外で長期避難生活を余儀なくされています。このシンポジウムでは、被災地・被災者の支援活動を通して得られた5年間の「基盤研究S」プロジェクトの研究成果を共有し、大規模災害に備える防災・減災について参加者の皆さまと考えます。

日時：平成29年11月27日(月) 12:00～14:00

※「防災推進国民大会2017」開催期間中

会場：仙台国際センター 展示棟 会議室 4
(宮城県仙台市青葉区青葉山)

主催：国立大学法人福島大学うつくしまふくしま未来支援センター
「基盤研究S」プロジェクト

!!! 参加無料、当日参加も可能です。!!!

※会場までは、公共の交通機関をご利用ください。

★お問い合わせ先★

国立大学法人福島大学うつくしまふくしま未来支援センター(略称:FURE)
「基盤研究S」事務局 千明(チアキ) 精一
☎024-504-2831 E-mil r864@ipc.fukushima-u.ac.jp

【プログラム】

○第1部 研究総括報告 12:05～12:20

〈研究代表〉帝京大学経済学部 教授 山川 充夫 (福島大学FURE 客員教授)

「福島復興・再生に向けた5年間の軌跡」～原子力災害復興の基本問題は何か～

○第2部 研究活動成果報告 12:20～12:50

熊本学園大学社会福祉学部 准教授 高木 亨

「被災地・被災者の支援活動から見た新たな課題」

福島大学うつくしまふくしま未来支援センター 准教授 大瀬 健嗣

「東京電力福島第一原子力発電所事故災害からの復興」

○第3部 パネルディスカッション 12:50～14:00

「3.11東日本大震災・原子力災害からの教訓」

～大規模複合災害を通して防災を考える～

モデレーター：福島大学うつくしまふくしま未来支援センター長・教授 初澤 敏生

コメンテータ：〈研究代表〉帝京大学経済学部 教授 山川 充夫

パネリスト：福島大学経済経営学類 准教授 吉田 樹

独立行政法人国際協力機構東北支部(JICA東北) 次長 三村 悟 氏

(福島大学FURE 客員教授)

一般社団法人ふくしま連携復興センター 理事 山崎 庸貴 氏